

第2回新潟市ブックスタート推進委員会会議録

日 時：平成22年9月7日（火）午後1時30分から

場 所：中央図書館3階 ビーンズホール

次 第

- 1 開 会
- 2 教育次長挨拶
- 3 議 事
 - (1) ワーキンググループ検討報告
 - ① 股関節検診会場報告
 - ② 1歳誕生歯科健診会場調査結果
 - ③ 実施機会別の比較
 - (2) 基本方針(案)について
 - (3) ブックスタートボランティアについて
 - (4) 絵本の選定
 - (5) 今後の予定
- 4 その他
- 5 閉会

出席者

市 民 委 員：神林委員，正道委員，錦委員，渡辺委員，仁多見委員

市役所関係課：こども未来課渡辺委員，保育課木村委員代理風間委員，保健所健康衛生課神戸委員代理安達委員，生涯学習課玉木委員，中央公民館和田委員代理丸山委員，教育次長（中央図書館担当）八木委員，中央図書館サービス課山下委員

事 務 局：持田企画管理課長補佐，石田サービス課長補佐，加藤館長（豊栄），三田館長（新津），石口館長（白根），松原館長（西川），子安係長，中村副主査，小林副主査，

傍聴者 1名

1 開 会

(司 会)

ただいまから、第2回新潟市ブックスタート推進委員会を開催いたします。

当推進委員会は、市民の皆様に公開しております。本日、傍聴される方が1名いらっしゃいます。よろしくお願いいたします。

開会に先立ちまして、八木教育次長より挨拶を申し上げます。

(八木教育次長)

6月3日の第1回目から数えて3か月も過ぎたこととなりますけれども、この間、ワーキンググループで、現地視察も含めさまざまな検討をまいりました。その報告と合わせ、今日は基本方針(案)をお示し、ご意見を伺うということでございます。

(司 会)

ここからは、新潟市ブックスタート推進委員会設置要綱第4条により、八木委員長に議事進行をお願いしたいと思います。

(八木議長)

「(1) ワーキンググループの検討報告」です。事務局から説明をお願いいたします。

(事務局)

別紙1「ワーキンググループの検討報告」の「1 ワーキンググループの会議日程」ですが、基本方針(案)の作成に向け、ワーキンググループ会議を下記により実施させていただきました。ワーキンググループは第1回推進委員会のときに設置要綱を皆様にご承認いただいたところですが、その第5別表2に基づきまして、こども未来課、保育課、保健所健康衛生課、中央区健康福祉課、中央公民館、豊栄図書館、新津図書館、白根図書館、西川図書館の計10名と事務局でワーキンググループを構成させていただいております。そのワーキンググループで都合4回の会議をさせていただきました。

第1回目は6月8日に「ブックスタート事業の推進について他」ということで、グループ員で共通認識を持とうということで会議を持たせていただきました。

第2回目は6月28日に「股関節検診会場視察他」で、中央地域保健福祉センターで股関節検診をやっている会場をグループ員全員、総勢15名で視察させていただきました。そのときに、図書館の職員が、早く来て検診をお待ちの親子7、8組に絵本の読み聞かせのデモンストレーションを実施させていただきました。その後、健康福祉課の伊田課長をはじめ、担当の保健師と話し合いを持たせていただきました。

第3回目は8月20日ですが、第2回と第3回の間の期間があいていますが、これは(2)で説明させていただく予定の股関節検診会場視察ということで、6月28日の中央区を皮切りに、

全区の全会場を視察させていただき、結局、最後が8月16日の西蒲区の巻地域保健福祉センターで終わりということで、それを待って、8月20日に第3回のワーキンググループ会議を開催させていただきました。この場では、視察結果と、3番で報告させていただきますけれども、1歳誕生歯科健診の担当者に8月初めにアンケート調査をいたしまして、それらを持ち寄り、喧喧諤諤と意見を交わしていただき、基本方針（案）の作成準備をさせていただきました。

第4回の会議ですが、8月26日に開催し、ここでワーキンググループとしての基本方針（案）を決定させていただきました。そのほかに絵本の選定、配付資料をここで決めていただきました。

続きまして「2 股関節検診会場視察報告」ですが、この詳細は、資料1をお開きいただきたいと思います。

こちらには全区の全会場の視察の結果をまとめてあります。私どもが見てきたのは、検診の流れ、検診の様子を見させていただきました。ここの検診でブックスタートができるのかなということで、検診の流れ、検診の様子、あとはブックスタート実施に向けて、ここの会場はこういうところが問題だということ。大体、駐車場と実施場所に集約されるものですから、駐車場はどうか、他に実施する場所はあるかなど。その他については、特筆すべきことがあるかどうかということ、自分たちの目で見させていただきました。検診の途中や終わった後で、各区の健康福祉課の課長、担当補佐や係長、保健師などから股関節検診の会場でブックスタートができるかどうかのご意見をいただきました。

別紙1にお戻りいただきたいと思います。本来は一つひとつご説明申し上げればよろしいのですが、集約できるということでまとめさせていただいております。

一別紙1の2を説明。

次に「3 1歳誕生歯科健診調査結果」ですが、こちらは、股関節検診で各区を回っておりますときに、担当保健師さんから、1歳誕生歯科健診のほうがやり易いのではないかといった意見をいただいたものですから、急遽、中地域保健福祉センターと石山地域保健福祉センター、西蒲区の巻地域保健福祉センターの1歳誕生歯科健診は視察させていただき、他の区につきましては、担当にアンケート調査をさせていただきました。資料2をお開きいただきたいと思います。

検診の流れや、一人当たりどのくらいの時間その会場にいるのか。ブックスタート実施にあたって、皆さんできるとおっしゃってくださるのですが、何か考慮すべき点はあるのではないですかということで、このような調査票でお聞きいたしました。

一別紙1の3を説明。

次に、「4 実施機会の選定」です。実施機会というのはいつどの時期でやったらいいかということなのですが、第1回の推進委員会で皆様から出されたご意見といたしましては、条件Ⅰとして、多くの子どもに手渡したいということで、私どもも検診会場で手渡すのが一番で、それも条件Ⅱということで、親子のふれあいの時間を持つことの大切さを啓発するために、できる限り早い時期に実施したほうが良いというご意見をいただきましたので、この時点では、できるだけ多くの子どもに1歳前に渡したいということで、4か月の股関節検診かなということで、この時点ではスタートさせていただいております。

「(1) 条件Ⅰ」ですが、なぜ4か月とか1歳かといいますと、先回の1回目に、保健所の安達補佐からご説明いただいたと思いますが、新潟市では乳幼児を対象に行う集団検診で一番早いものが股関節検診で2か月から4か月児、次が1歳誕生歯科健診で1歳から1歳4か月児、次が1歳6か月検診で1歳6か月児、3歳児検診で3歳6か月児が対象。この四つが集団検診で、あとは個別でお医者さんに行かれるということでしたので、こうなると股関節検診か、1歳誕生歯科健診かという選択肢がここで見えてくると思います。

「(2) 条件Ⅱ」ですが、できる限り早い時期に実施することが望ましいということで、第1回の推進委員会では6か月、10か月と1歳前というご意見をいただいたところでございます。

条件Ⅰ、Ⅱを考えますと、やはり股関節検診なのではないかと思って進めてきたわけですが、

(3)にもありますけれども、股関節検診ではいろいろと回ってみたら、駐車場、会場等の施設の制約から実施できない区があるということが分かってまいりまして、ではどうすればいいかということで、いろいろと検討させていただきました。

資料3をご覧くださいと思います。その検討をしたところの実施機会別の比較ということですが、股関節検診はといいますと、対象は2か月から4か月児。合併市町村では2か月に1回というところがございます。そうすると2か月のお子さんがいらっしゃる、5か月のお子さんがいらっしゃるということで、首も据わらない赤ちゃんをお母さんが横抱きにして来られるというケースも多々見受けられました。

回数や会場数ですけれども、本年度、すでに保健所のほうで決められておりますので、回数を数えてみましたら、股関節検診は平成22年度で102回の実施回数がございます。会場は12会場で行いました。股関節検診でやる利点は、2から4か月の早い時期から絵本の読み聞かせによる親子のふれあいの時間を持つことの大切さを啓発することができるといった利点があると思います。考慮すべき点では、検診会場や駐車場が狭いため実施が難しい区がある。検診現場の体制、検診の流れ等時間的な問題もあるというお話を聞いてまいりました。保護者に余裕がないというのは、2か月くらい首も据わらないお子さんと、荷物をいっぱい持って来られているお母さんなども見受けられましたので、余裕がないのかなと見させていただきました。

1歳誕生歯科健診ですけれども、対象者は1歳から1歳4か月。こちらの平成22年度の実施回数は192回、会場数が17会場。回数を比べていただきますと、1歳誕生歯科健診は股関節検診の約2倍の回数があります。1年間で生まれるお子さんは6,500～6,600人です。102回やるか192回やるかということで、1回の人数が少なくなるというのがお分かりいただけると思います。1歳誕生歯科健診の利点といたしましては、絵本を読み聞かせた際の反応が分かりやすい、子どもさんは股関節検診のときよりも大きいので、反応が親御さんにも見てとりやすいという感じを受けます。すべての区で実施できる。これはこちらでやってほしいという声が多かったということです。

考慮すべき点といたしましては、江南区、西蒲区で4歳児のフッ素塗布と一緒に実施しているのは説明が必要であるということと、動きのある子どもたちの安全確保。こちらでは回数が多い分、ボランティアの確保が難しくなってくるのではないかと思います。

やり方の一つとして、区ごとにやったらどうかということですが、例えば股関節検診がやりやすい区も確かにありますので、股関節検診でやりやすい区は股関節検診、そうではない区は1歳誕生歯科健診というやり方もあるのですが、利点としては、各区の実情に応じた対応が可能であると。考慮すべき点としては、検診というのは区を超えて受診できると聞いておりますので、実施機会が異なる区で受診した場合の対応が必要になるのではないかと。股関節検診を受けに行ったら、1歳誕生歯科健診で読み聞かせをしている区だった、あるいは1歳誕生歯科健診を受けに行ったら、股関節検診の区だったということで、どちらももらえなかったりする方が出てくるのではないかと。それが非常に危惧する部分だと思われまます。絵本やパンフレットなど2種類の準備が必要となります。区による実施機会の相違について、市民の理解を得る必要がある。不都合、不公平が生じないようにしていく必要があると思われまます。

別紙1にお戻りいただきます。3枚目をお開きいただきたいと思ひます。いろいろな資料で、ワーキンググループで検討した結果、全市で1歳誕生歯科健診会場で実施という形で決定させていただきました。ただ、早い時期からの働きかけも非常に有効であるというご意見をたくさんいただいておりますので、あわせて、早い時期からの親子のふれあいの時間を持つことの大切さを啓発するために、1歳未満児を対象とした事業も検討していくべきであるという結論に達しました。

以上で、ワーキンググループの検討報告を終わらせていただきます。

(八木議長)

ワーキンググループでの結果報告を受けて、次の別紙2の基本方針(案)が決まっているわけです。ここまですご質問をお受けしたいと思ひますが、いかがでしょうか。今ほどの報告で分かりにくいところあればお願いいたします。

ワーキンググループとは別に、私ども図書館内の事務局としても、当初、股関節検診の4か月を想定して作業を進めていたのですが、現場レベルでは難しい面が大きいということで、どちらかというと1歳誕生歯科健診のほうに今のところ傾いておりまして、基本方針（案）としてもそのような方向で考えてみたいということになっております。

あわせて別紙2の基本方針（案）も説明させていただいて、ご意見、ご質問をいただきましょうか。

（事務局）

「（2）基本方針（案）について」、別紙2により説明。

（八木議長）

ワーキンググループの報告とあわせて、事務局としての基本方針案を別紙2とさせていただいております。中でも、いつの健診会場にするか。あるいは新潟市全体として統一した1歳誕生歯科健診の会場にするかという、そこら辺についてのご質問、ご意見があらうかと思っております。今までのところで、別紙1、別紙2をとおしてご質問なりご意見がありましたらお願いいたします。

（仁多見委員）

4か月の股関節から1歳児の歯科健診という流れは調査の結果を説明いただいたのですけれども、例えば4か月児を対象にしたときの絵本の選定と、1歳児を対象にしたときの絵本の選定は微妙に違ってくるわけですか。

（事務局）

基本的にはそれほど変わらないのではないかと思います。ただ、1歳を過ぎたときに、もう少しストーリー性のあるものも、1歳4か月くらいの子どもさんがいらっしゃるということで、そろそろ分かってくる時期なのではないかと思えます。

（錦委員）

厳密に、これが何か月用の絵本ですという記載というのはありません。大体の目安です。赤ちゃん絵本と言われているのは0、1、2というのがあって、0歳、1歳、2歳、これは赤ちゃん絵本として括っていいと思うのです。大体の目安ですが、その子によっていっぱい読んでもらっているか、もっとストーリー性のあるものを要求しているのかもしれませんが、大体よろしいのではないのでしょうか。厳密に、これはここというのはあまりないと思いません。

（仁多見委員）

1歳児というと成長が激しくなっているから、すぐ飽きてしまうのではないかと思うのですが、そういうことはないのですね。

(錦委員)

例えば兄弟二人がいて、上が3歳、4歳、下が8か月とかというときは一緒になって見ます。3歳の子も8か月の子も。8か月の子も非常に興味を示して見ます。そういうことがあるので、あまり厳密でなくてもいいのではないかと思います。

(仁多見委員)

1歳誕生歯科健診のときと、4か月児を比較するとき、子どもたちが実感を持つかなというのが一番心配だと思うのです。その辺は大丈夫なのでしょう。読み聞かせをしているときは、あまり動かないようにお母さんが抱きしめながらということですか。

(事務局)

基本的には、親子一組ずつに一人のボランティアが読み聞かせをするということで、マックス5分くらいなのではないかと思っております。お母さんが膝に抱っこして、お母さんも一緒に読み聞かせの仕方や、子どもの反応を見ていただきながらという形で考えておりますので、持つかどうかと言われると、大丈夫かとは思いますが。

(山下委員)

持たないお子さんもいらっしゃるかもしれません。先ほど、どのくらい時間がかかるかということで、待ち時間によって30分から1時間という話がありましたので、その間に、もしかしたら飽きていて、持たないときもあると思います。それはそれなりに危なくないようにして、お母さんに向かって話しかけるということになってくると思います。

(八木議長)

神林委員、何かございましたら。

(神林委員)

4か月検診がいいのではないかと考えていたのですがけれども、2か月の子がいるということを知ると、そのお母さんたちにはかわいそうかなと思ったので、もう少し回数を増やせないのかなと思ったのです。4か月検診の回数を増やせば、三、四か月の子を対象にすればできるのと思ったのです。1歳くらいになると、選ぶ本の幅が広がります。読んで聞かせるには、4か月のほうが幅がないですね。1歳になると難しいといえば難しいけれども、歯科健診だから、終わって来て、ほかのお母さんがやっているのを見ている人もいますよね。入ってきたときにもその様子を見ているでしょうから、1歳未満ということに限定できるのであればいいのではないかと。1歳何か月となってしまうと、産休などの関係もあって、親子で来る機会はなくなって、おばあちゃんが連れてきたりということもあるのではないかと感じたりしました。

(事務局)

親子と申しておりますけれども、おじいさんでもおばあさんでも一緒に読み聞かせを聞いてもらって、家に帰って読み聞かせてもらえればいいなと思っております。検診の回数を増やすというのは無理だろうと思います。

(八木議長)

おそらく、一番大きいのは医師の関係なのでしょうね。回数を増やすということに関しては難しいですね。

(錦委員)

1歳よりも4か月がいいのではないかということでしたね。ずっと聞いていて思ったのですが、母子手帳を渡すときに、パンフレットとか子育て応援メッセージなどいろいろなものがあれば、母子手帳のときにどのようなものを配るのか分からないのですが、もう一つフォローが必要なのではないかと。少し助走が必要なわけですね。1歳になっていきなり絵本の読み聞かせではなくて、お父さんでも、お母さんでもいいのですけれども、読み手に絵本に対しての思いを強く持ってもらいたいのです。パンフレットで絵本に関する読み聞かせのアドバイスとか、推薦絵本の紹介とか、子育て応援メッセージの中に、1歳になる前に何らかの形で手渡ししたらよろしいのではないかと思ったのですが、いかがでしょうか。

(正道委員)

母子手帳というのは妊娠したときにももらうものですね。

(錦委員)

見附市では母子手帳のときにブックスタートをやっているということを知ったのです。

(正道委員)

実感として、まだ子どもの姿も見えていない、おなかにいる段階で、その子の絵本までは考えられるのかと思う。その段階では、おなかの子がどう育つかの問題のような気がします。

私が気になりましたのは、4か月の股関節検診と歯科健診が1歳から1歳4か月になっているということなのですが、1年違います。1歳4か月の歯科健診に行くまで本についての情報を得られないとなると、やはり遅いのではないかと。もう少し早めに手渡してあげたいという気持ちがあるのです。今、股関節検診で絵本の資料を、どのようなものをお配りしているのでしょうか。

(山下委員)

図書館で作成しているお薦めの絵本のリストで「はじめての絵本」というものが2種類、合計で32冊の本が紹介してあります。もう1種類、3歳以上を対象にしたものが、「たのしい絵本」で、これも2種類に分かれています。これも32冊です。これは各区の健康福祉課で時期

をみて両方配ってくださっているところもあったり、「はじめての絵本」1種類だけだったりということもあります。図書館のカウンターでも配布しているものです。

(錦委員)

4か月検診のときにそういうものを配っているということで、チャンスが母子手帳のときと4か月検診のときと1歳のときと思ったのです。多分、1歳では遅いのではないかという気持ちがあるものですから、母子手帳、4か月あたりにパンフレットだけでも配ってもいいのではないかと思ったのですが、どうでしょうか。

(事務局)

私どもも、別紙1の3枚目にお書きしたように、1歳まで何もしないということではなくて、1歳未満児を対象とした事業を検討するというので、できれば4か月くらいで何かやれないものかと。継続できるような形で、1歳誕生歯科健診までもっていけないものかと思っております。

(渡辺委員)

ブックスタートの時期に関してはいろいろな条件などがあって、会場がとれないとか駐車場がないとかという事情があるので、その事情にそったやり方で、歯科健診などが条件として一番いいとなったのは理解できるのです。ただ、先ほども他の委員からお話がありましたように、ブックスタートというものがあるということを早い時期に啓蒙活動するというか、母子手帳をもらったときに、何か月かに母子検診がありますので、その母子検診に今はお父さんも一緒に参加しましょうとか、そういうスケジュールが載っていますけれども、そういう中にブックスタートもあって、資料を渡したりする時期があったりという流れが分かるような情報があちこちにあると、1歳までの間にこういうものがあるのだと楽しみに待っていただけるのではないかと思います。その間がすごく長いとは思いますが、子どもが生まれたときも何か情報があって、この本を選んで読んでみようという流れになるような形をとればいいのではないかと思います。

(仁多見委員)

今のことに関連して、例えば選定する図書というのは年度ごとに変わっていくものなのか。

(事務局)

今考えておりますのは、3冊ご用意させていただいて、好きなもの、またはまだ持っていないものを選んでいただいて、毎年、なくなり具合といいますか、どうしても残るものがあると思いますので、それはまた選定をします。

(仁多見委員)

1歳までだと、その間に買ってしまいますよね。それが分かっている人、分かっている人によって大分差が出てきてしまうのではないかと懸念がありますが、その辺はどうやっていくかということです。

(正道委員)

先ほどの発言に関連してなのですけれども、いきなり1歳、1歳4か月で歯科健診に行ったときにブックスタートというのは少し遅いような気がします。母子手帳を配るときというお話もありましたけれども、遠い昔にもらった自分の母子手帳を思い浮かべましたが、母子手帳というのは各市が作るものなのですか。

(八木議長)

市です。

(正道委員)

市で作るとしたら、妊娠何か月はどういうことに注意しましょうとか、子どもが生まれたらどういうことに気をつけましょう、何か月目にはこういうことがあります、例えば検診は股関節検診、歯科健診がありますというところの1項目としてブックスタートがありますということ母子手帳の中に入れてしまうこともできないのではないかと考えています。

(安達委員)

母子手帳は確かに毎年作り直しております。ただ、前半、表紙、はじめから真ん中くらいまでのところは国で決められておまして、絶対に変えてはならないと言われております。ただ、後半の半分は、それぞれの市でプラスしたいいろいろな情報を盛り込んで作っておりますので、そこに入れるということも可能かなと思います。毎年色を変えて、1年度分を2月か3月に印刷して使っておりますので、どこにどういうふうに入れるのがふさわしいかはこれからの話し合いになると思うのですけれども、そこに入れる。そこに入れたら見るかということ、逆に1枚のペーパーで入れるということも考えられますし、工夫はいろいろとできるのではないかと考えています。

(仁多見委員)

あるいは新生児訪問のこんにちは赤ちゃん訪問事業ときに本を持っていくというのが昔の発想だったようですね。お誕生おめでとうと言って本を持っていくのが。

(安達委員)

母子手帳のときにいろいろなチラシを配るのです。それをじっくり読んでいるのも大変なのではないかと思っておりますので、どのときに配ったらいいのか。先ほど、まだおなかも大きくなってまだ実感もないうちに母子手帳をもらいにきますので、どの時点でPRするのが一番効

果的かということは話し合う余地があるかもしれないと思っております。

(神林委員)

1歳4か月というのは気になりますね。

(事務局)

1歳誕生歯科健診なので、誕生月に間に合うように案内を出して、ほとんどが1歳の誕生月に来ます。ただ、転入された方などがいらっしゃるので、1歳4か月くらいまで幅を広げているとは聞いております。市内のお子さんはほとんど1歳で受けられると聞いております。

(神林委員)

では、毎月あるということですね。

(八木議長)

基本的には1歳を標準に考えながら、レアケースで最大4か月までということですね。

事務局サイドに立たせていただくと、検診の機会が二つで二者択一だと。できるだけ大勢の子どもさんに読み聞かせをし、手渡したいということを考えたときに、ほかの市でもやっている例があるように、例えば図書館が主催してやるとかといったことではなくて、検診会場の中で選ばせてもらいたいという二者択一の中で、苦しいところなのですが、1歳誕生歯科健診を物理的な条件の中で選択せざるを得ないだろうというのが正直なところでございます。先回もご意見をいただく中で、実施時期としては1歳未満、それならば4か月だろうということだったわけですが、そういう条件の中で、1歳歯科健診でという基本方針を出させていだいたということで、ご理解をいただきたいということです。

フォローの関係について、事務局としてもフォローしていく必要が大いにあると考えているのですが、そこら辺をもう少し強調していただけませんか。

(山下委員)

子ども読書活動推進計画を策定した際に、幼稚園、保育園に蔵書の数や読み聞かせの機会を聞くのとあわせて、保護者の方たちにもアンケートをとりました。それは1歳以上を対象としていたのですが、保育園、幼稚園にお子さんが通っていらっしゃる保護者のかた、地域子育て支援センターに来ていらっしゃるかたにもアンケートをとりました。1,600人くらいだったのですが、その調査項目の中に、何歳から絵本の読み聞かせを開始しましたかという項目がありまして、その結果は、1歳前に読み聞かせをしたというかたが6割弱だったのです。これは先ほど申し上げましたように、調査対象というのが保育園や、地域子育て支援センター等を利用して社会に出ているお母さんということなので、多分、そうでない方たちを含めたときにはもう少し下がるのではないかと思います。

ただ、1歳前に大分絵本の読み聞かせをしてくださっているということがこの調査では分か

りましたが、逆に、もし6割だとしても4割のお子さんたちが1歳前には絵本の読み聞かせの機会を与られていないということになります。そういう方を対象に考えたときに、1歳でいいのかというのが事務局やワーキンググループの中でもいろいろな意見が出ました。ブックスタートはすべての赤ちゃんに絵本の読み聞かせをして、絵本をプレゼンとするということで、1歳が赤ちゃんなのかという意見がありました。厳密にいうと1歳児は赤ちゃんとは言わないのだそうです。ということで、一番大勢のかたに働きかけられるのは4か月検診だと思いますが、今配布しているような絵本のリストはリストが中心ですので、どのように読んであげて欲しいとか、読んであげることでどのような効果があるかなどを分かりやすく書いたパンフレットを作る必要があると思っています。

あとは、マタニティ時がいいのかどうかというのはこれから検討させていただきたいと思います。図書館や公民館などでも、新潟市が1歳でブックスタートで絵本のプレゼントをするが、その前にもこのような機会があるのだということをPRしていくことが必要なのではないかと思います。

(渡辺委員(市))

1歳誕生歯科健診の受診率はどのくらいですか。前に、股関節検診をという話というのは、1歳よりも前ということと、受診率が高いということが大きかったのではないかと思います。会場とか回数ということで1歳誕生歯科健診を対象にしたという部分は理解できるのですが、歯科健診がどのくらいの親御さんに必要とされているのか。余裕があればもちろん行きますけれども、一生を左右するような股関節健診や1歳半の無料の健診というあたりが心配なところなので、先ほど計画の中にもありました「9 その他」のところ、1歳誕生歯科健診の未受診者に対する機会を検討するというあたりはすごく大事になるのではないかと思います。

(事務局)

受診率ですが、平成21年度に調べさせてもらったのですが、股関節検診が91.6%、1歳誕生歯科健診90.4%ですので、1%くらいしか変わらないということです。ただ、90%となったときに、来られないかたが1割いるということになります。そこをケアしていくことが非常に大切かと思っておりますので、どのようにケアしてくかというのを、各区の実行委員会で具体的に検討していただきたいと思います。

(八木議長)

ひと通り事実関係、事務局から説明をさせていただいた趣旨をご理解いただいたかと思いますが、さらにご意見がございましたらお願いします。

(渡辺委員)

今、受診率のお話がありましたけれども、その差があまりないということであれば、対象年齢が多少が高くなっても、それまでの準備段階をもっと充実させるということ、できるだけ専門のかたたちで一生懸命考えていただく。ただ、もらったときにあまり実感がないということではなくて、もらうまでがとても楽しみだと思えるようないい事業になってほしいというのが一番の希望なのです。母子手帳をもらったときから、これから楽しいことが始まる、楽しい子育てのための読書活動だと思えるのです。皆さんはそういうことを考えて検討してくださっているということはお話を聞いて分かりましたので、私たちボランティアも同じ意識を持って活動できるような形をとって欲しいと思います。

(錦委員)

夏休みに東北本線に乗っていたら、若い女の子がしゃべっていたのですが、保育士さんだったのです。その保育士さんたちはお互いに違う保育園、幼稚園に勤めていて、大学か短大で同級生で、お互いに夏休みで電車に乗り合わせて、私は隣に座っていたのですが、その若い保育士さんたちが、「やっぺられない」と言ってるわけです。私も他人事ではないと思って聞いていたのですが、保護者とのトラブルがあったり、今、保育士の先生は大変のようです。最後に「でも、子どもたちに絵本を読んでやっているときが一番ほっとする」と言ったので、彼女たちに幸あれと思ったのです。

大変な職場ではあるけれども、子どもたちに絵本を読んであげているときが一番ほっとして、子どもたちの楽しそうな顔を見るのが一番だという話だった。子どもたちにとっても楽しいのですけれども、読み手のお母さん、お父さん、おじいちゃん、おばあちゃんたちにとっては、子どもの喜ぶ顔が見たくて絵本を読んでやるわけです。やはり読み手にはもっと早い段階でそれを認識してもらいたい。ですから、1歳というのは私としてはやや不満ではありますけれども、そこまでに至るまで、先ほど渡辺委員がおっしゃったように、私たちがいろいろとフォローしていかなければならないのではないかと思います。これは子どもたちのためだけではなくて、読み手側の保育士、お母さん、全部に向けてのブックスタートでもあると思うのです。ですから、ぜひ何とかしたいと思います。

(八木議長)

ありがとうございます。正道委員、何か補足がございますか。

(正道委員)

補足ではなくて、参考までにお伺いしたいと思います。先回の資料の中にあっただのかもしれないのですが、今、ブックスタートをやっている中で、何か月が多いのかなど。1歳のところで何割くらいあるのか、4か月くらいでは何割くらいがやっているのかということ参考まで

に聞かせてください。

(事務局)

NPOのブックスタート調べで、2008年度の集計結果なのですが、4か月まででやっているところが実施している市町村の44%です。7か月まででやっているところが27%、10か月まででやっているところが18%、1歳までが7%、1歳6か月までが4%となっております。

(山下委員)

補足させていただきますと、今の数字を合計すると、4か月の44%は変わらないわけですが、7か月までということだと71%となります。足し算しただけなのですが、10か月までは89%ということになります。1歳から1歳6か月だけを取り出すと4%と少ないです。政令市平均が5か月です。県内の平成22年3月調査によりますと、1歳児でやっている三つの自治体がありました。魚沼市が1歳、南魚沼市が、新潟市がこれからやろうとしている1歳児歯科健診時、出雲崎町が1歳6か月検診でした。NPO調べは、NPOですべてを把握しているわけではないですので、もう少し実態は違っているかと思います。

(正道委員)

やはり1歳というのは少し遅いという気はしますけれども、これまでの会場の事情とかシステムの事情を考えると、やはり1歳しかないのだろうかという結論になりますね。それだったら、1歳までの間にいろいろな形でフォローがなされていって欲しいと思います。

(風間委員)

先ほど、錦委員もおっしゃいましたが、このブックスタートの意義というのは、親子のふれあいということが主であって、子どもたちに絵本をプレゼントするのが4か月から1歳に変わりましたが、それは物理的に仕方がないということなのですが、今、保育士も大変です。子どもたちが非常に育ちにくく、昔から見ると何倍も難しい環境の中に子どもたちは置かれているのです。延長保育なども、昔の旧新潟市は3時にお帰りでしたが、今、子どもたちは10時間、11時間、12時間という時間を保育園で過ごしています。

その中で、両親が共働きで家へ帰って、ゆっくり子育てができて、子どもに十分愛情をかけられる状況かといったら、お母さんは家事が待っているけれども、仕事で疲れているという条件の中に子どもたちが置かれているということは、想像されると分かると思う。決して昔のように、子どものことをかわいい、かわいいではない状況のお母さんがたも非常に多くなっていて、子どもたちは低年齢のときからキレるとか、反抗するとかということが非常に多くなっています。戦後に作られた配置基準の中で、何十年経った現在も同じ状況で保育されているわけです。保育園の環境も非常に劣悪ですが、家庭環境も大変な子育て状況なのです。

幼児期というのは人間形成のためにとっても大切な時期ですので、このときにうんと愛情をか

けて育てて欲しいというのが私たちの願いなのです。ですから、このブックスタートの意義というのは大変大きなものがあると思います。確かに1歳のときに初めてブックスタートで説明をして読み聞かせをしていく意義はあるのですが、その前に、先ほどから皆さんがおっしゃられているのですが、例えば出生届、母子手帳のときなどいろいろな機会を捉えて、絵本を媒体として、子どもとふれあって、子どもに愛情をかけるということは、子どもにとっては素晴らしいことなのです。その一環として、まず絵本を読んであげてくださいということで啓蒙活動していければ、そして1歳のときに、実際に読み聞かせをしてあげて、お母さんも一緒に聞いてあげてくださいというような、お母さんにふれあう、愛情をかけるということはとても大事なのだということを伝えていただきたいと思っております。ぜひ成功するようにお願いしたいと思います。

(八木議長)

行政委員のほうでご意見なりコメントなりがありますか。

特になければ、次に移らせていただきます。別紙3になります。ブックスタートボランティアについて、絵本の選定もあわせてということで、(3)、(4)、別紙3、別紙4をあわせて事務局から説明をお願いいたします。

(事務局)

一 (3)、(4)について、別紙3、別紙4により説明。

(八木議長)

特に東区、西区あたりは少し過不足でマイナスになっていますが、ご質問、ご意見はございますか。

(神林委員)

健診の大体の時間を知りたいのですけれども。

(事務局)

1歳誕生歯科健診ですと、ほとんどが午前9時半くらいから10時くらいまでです。10時半までのところもあります。ただ、江南区が1時から1時半、南区が1時から2時です。巻地域保健福祉センターが12時45分から1時20分ということで、午後からのところが江南区、南区、西蒲区には二つ会場があるのですが、そのうちの1か所、巻地域保健福祉センターは午後からです。午後は3区です。

(神林委員)

ということは、30分から1時間くらいの間に8組できるのでしょうか。

(安達委員)

この時間は受付時間ですので、その間に受付を終わったお子さんが順次診察をされるのです。

(神林委員)

8組というと、1人10分くらいかかれば、単純に考えて80分ですよ。

(八木議長)

ということは、平均的に3時間くらいとみればいいのでしょうか。

(事務局)

2時間半から3時間くらいでしょうか。

(神林委員)

9時半に受け付けて3時間かかるとすると12時半ですよ、お昼時間にもかかって、健診する先生もそうですね。

(安達委員)

先生は、最後のお子さんが診察を終わればお帰りになります。

(神林委員)

でもボランティアはお昼の時間も経過する可能性はあるということですね。

(八木議長)

ボランティアさんは、例えば3時間であれば9時から12時までということで健診会場を考えたときに、開始と同時に最後まで全員の方にいてもらうということになりますよね。拘束時間としては3時間半くらいになりますね。

(神林委員)

8組ということはゆっくりということですよ。

(山下委員)

この8組という数字も、長岡に聞きに行ったときには、担当者は10組くらいということもおっしゃっていました。ただ、特に来年度が初年度なので、職員側もボランティアの方たちも慣れないということで8という数字を出しています。始まる前もそうなのですが、今日は何組でこのようになっていますという説明をして、終わった後に反省会ではないのですが、どうだったかとか、今後どうやったらいいかという話し合いも必要かと思っています。

(八木議長)

イメージとしては、例えば1会場3時間で30人のかたを対象にして、ボランティアさんが1人8組だと4人くらいのボランティアさんが必要かと。

(山下委員)

4人よりは多めに5人という数で数えたいと思います。

(八木議長)

5人くらいのイメージで、そこにこちらの職員が会場対応、ボランティアの調整、会場とのつなぎということで最低1人ないし2人が出向くというイメージになりますか。

(山下委員)

先ほど神林委員が、会場全体が見えていてとおっしゃったのですが、その会場によっては見えないところで行うこともあると思います。見えないというのは、1歳誕生歯科健診をやっているところとは別の場所でやるところも出てきます。

(神林委員)

そうではなくて、待っている時間や、その控え室のようなところに入ってきて、読み聞かせをやっているところを見て健診に行く人もいるのではないかと思うのですが、そういうことはないので、流れとして。

(山下委員)

本当に会場によって違うと思います。私どもが股関節検診と1歳誕生歯科健診を数か所見た感じでは、やはり早く健診を行いたいと思われまますので、早く受付を済ませて、終わった方からやっていくという形です。

(神林委員)

控え室というところではなくて、順路があるわけですね。

(山下委員)

それも会場によって違うかと思えます。基本方針ができた後で、各区の実行委員のメンバーの方たちで会場を見て流れを考えることになります。

(神林委員)

自分が江南区だから言うわけではないのですけれども、江南区は4歳児も来るということでしたね。その子どもたち用の担当の人もいたほうがいいのではないかと思ったのですが、どうでしょうか。

(事務局)

そういったところでは読み聞かせをしない、誘導係のような職員は1人必要なのではないかと考えております。江南区につきましては会場が3か所あります。横越健康センター、曾野木健康センター、亀田健康センターですが、少ないところで1回平均が15人くらいです。受診者は15人から30人くらいです。そういうところでは必ず1人、交通整理の人間をたてるということで進めていきたいと思えます。

(神林委員)

そうではなくて、4歳の子どもと1歳の子どもと両方連れてきたお母さんがいた場合は。

(事務局)

一緒に聞いてもらえます。

(神林委員)

それでいいのですね。

(事務局)

交通整理というのは、4歳のかたと1歳のかたの整理という意味も含めてです。

(八木議長)

別紙3について何か他にございますか。

(渡辺委員)

ボランティアの人数の表なのですが、登録可能な人数は177名で、この人数からいくと、重複している人がかなりいるということです。その辺で、どういう方たちが何会場ももてるのかということですか。

今、私は北区に住んでいるので、北区や西蒲区など旧新潟市ではないところの人数というのは過不足はないので、地域的に、ここまでボランティアはしないだろうと。その地域でまかなえる人数として大体読み取れるのですが、東区と西区では人が足りないというところがすごく心配に感じます。その辺をこれからどのように考えていくのかをお伺いしたいと思います。

(八木議長)

特に東区、西区で足りないあたりは、これからのボランティアの養成方法も含めてということになるのでしょうか。

(山下委員)

このアンケートをとったときは、この区では何時だとか、時間をお示しできなかったもので、これから「市報にいがた」などでボランティア希望者を募ることになるわけですが、初めての方も、この177名の方も一緒に養成講座を受けていただいて、その上でもう1回各区、各会場の時間をお示しして、おいでになれる方の実数をつかむことになります。つかんでみて、それからまた考えるしかないのではないかと考えています。ただ、マイナスになっている区は、いろいろなところにご協力いただきながら、個別に声をおかけしていくしかないのではないかと考えております。ボランティア養成講座が終了した後も実際に数字をつかんでみたら少なかったという区は、ボランティア養成講座とは別にお願ひしなければいけないと考えています。特に1年目は多少多めにお願いするしかないかと思っています。

(風間委員)

今、公立の保育園は92あるのですが、例えば早朝とか延長とか、朝7時とか7時半から勤めていらっしゃる方や、夕方3時半くらいから勤めていらっしゃる方などはちょうどあく時間が

あるので、そういう方々で保育士としての資格を持っている方や、子どもたちに接するのがうまいとか、そういう方もいらっしゃいます。私も園長会などで皆さんに声をかけてみます。

(八木議長)

仁多見委員、社会福祉協議会のほうも頼りにしているのです。特に民生児童委員の関係やさまざまありますが。

(仁多見委員)

読み聞かせというと、わりとおじいちゃん、おばあちゃんでも、むしろ子どもとのふれあいとういことを考えたときにいいマッチングだと思うのです。おじいちゃん、おばあちゃんでも意識のある人は大勢いますので、我々が抱えている民生委員などの皆様方にいろいろとお願いできる環境にありますので声はかけさせていただきます。常日頃から、ボランティアというのは我々のネットワークの大事な部分ですので、今後の状況によってはお手伝いさせていただきます。

(伊田委員)

今日のNHKの朝の番組の中で、団塊の世代の人たちがこれからどんどん定年退職をされて、おじいちゃん、おばあちゃんの世代になられるということで、初孫等の育児講座がおじいちゃん、おばあちゃんにとってはいい講座になっているというのがニュースでやっていたようです。そこに、例えば読み聞かせ等のボランティアでも本当にやってくださる方がきっといらっしゃるのではないかと思うので、おじいちゃん、おばあちゃんのためのという感じの読み聞かせのボランティア講座等を特に銘打ってやるほうがいいのではないかということが、今日の朝のテレビを見た感想です。

もう1点は、唐突なことを言うようですが、子育てから離れている人と、今、子育て真っ最中の、例えば乳幼児を持っている人もボランティアとして参加はできるのでしょうか。対象者になりますか。今、どちらかということ、子育てから手が離れた人ですけれども、自分のお子さんを連れてというのは可能でしょうか。

(山下委員)

やっていただく内容が決まっているわけなので、それをこなしてという言い方は悪いですが、やっていただけるならば大丈夫だと思います。

(神林委員)

アクシデントがあった場合に、人数が決まっているボランティアさんに、その負担が乗っかりますよね。自分の子どもも大事だから、そこでは。

(山下委員)

時間も長いですね。

(神林委員)

3時間の拘束という、自分も赤ちゃんも大変だと思います。子どもが酷使されますよね。

(伊田委員)

考え方としてそういう考え方と、もう一つは、一緒に育てていくわけではないのですが、そういう中で遊ばせながら、母親もほかの子どもに読み聞かせをするものを子どもも一緒に聞くという可能性があるかないかだけだ。皆さんのほうで、それは少し難しいということであれば。

(渡辺委員)

私も今民生委員をやっているのですが、社会福祉協議会のほうで保育ボランティアを養成して、その保育ボランティアさんがいれば、例えば1時間でも2時間でも自分の子どもを預かってもらって、読み聞かせのボランティアに行くということができるのではないかと。社会進出ではないですけども、そういうところにふれあいながら、自分もやりがいのあるちょっとしたお手伝いをするというのは子育てにすごく有効だと思います。私もそうやっています。そここのところのネットワークをうまく利用して、連携してやっていけば、いくら小さいお子さんがいても、自分のやりたい読み聞かせはできると思うので、その辺のところは生涯学習の担当の方たちも一緒になって連携して、保育室をつくりながらでもボランティアをやる形はできるのではないかと思います。

(玉木委員)

生涯学習の分野では、団塊の世代をはじめ活動の場所がたくさんありますので、この活動を読み聞かせまたは地域のボランティア活動にどう結びつけられるかということは、本当に大事なことだと思っていましたので、中央公民館と相談しながら、やっていきたいと思っています。

(丸山委員)

私も今日の朝、NHKテレビで、おじいちゃん、おばあちゃんが自分たちの息子さんや娘さんと一緒になって育児のための講座を受けているといったニュースを聴きまして、これも一つの時代の流れなのかなと思いました。私のときはできなかったけれども、今は少し余裕ができればそういうことをやってみようかという雰囲気が出ているのかなという感じを受けました。高齢者に対する講座や取り組みがこれから求められていまして、そういう中で、家にこもるのではなくて、読み聞かせのボランティアで外へ出る機会を設けることがいい方向へ向うような気がします。そういう意味では、公民館でボランティア講座もいろいろとありますけど、活動する場がなかったりすることがよくあります。目的がなく、ただボランティアを育てればよいということでは、今の時代にはあわないと思います。活動の場がはっきりした中でボランティアを養成していくことが活気をもたらすと思います。ボランティアさんが活動する場を提供しながら、実際にボランティア養成したことが成果として出ていくということが、これからの

人生を生きる一つの目標として生きがいつくりにつながればよいと思います。そのようなことをこれから考えながら進めていかなければと思います。

(八木議長)

次に別紙4「絵本の選定」は一緒の説明のつもりだったのですが。

(事務局)

―「(4) 絵本の選定」について、別紙4により説明。

(八木議長)

これに関して、何かご質問、ご意見はございますか。

(正道委員)

選定は本当に妥当だと思います。絵が身近なものとか、ストーリー性のあるものとか、その中から選べるということはとてもいいことだと思います。素朴な疑問なのですが、一つの本だけに人気が集まった場合やばらつきがあった場合はどのようにするのか。絵本をすごくたくさん用意しておいて、余ってしまったら返品ができるのか、どうなっているのでしょうか。

(山下委員)

実際にやっているところがありますので、聴き取りながらやりたいと思っていますが、多分、1年分を全部購入することはしないのだろうと思います。分けて購入すると思います。ブックスタートを開始する今年度の配布絵本はこれとこれですということを皆さんにお示しすると、それは買うのをやめておこうかなと思っただけなのではないかと今思いました。

(風間委員)

私も今はそう思います。すでに兄弟がいらっしゃると、上のお子さんが絵本が好きだとけっこうそろえているものだから、すでに持っている人はいっぱいいると思うのです。その場で、もうみんなありますと言われたときに応えることができないと困るので、やはり最初の啓蒙活動のところ、今年度はこういう本ですということを示されていると、この本は買うのをやめようかなとかとなると思います。

(八木議長)

絵本の選定に関してほかに何かご意見はありますか。

(正道委員)

実務的なことになってしまうのですが、ボランティアさんが入って、お子さんとお母さんあるいは保護者の方にその場で本を読んであげるのは、この3冊の中から選ぶということですか。そうではなくて、このリストにあるようにたくさん持って行って、そのときはその場で読んであげて、お土産はどれがいいですかという形でやるのですか。どちらなのでしょう。

(山下委員)

長岡の事例をNPOから聞いたのですが、長岡は8冊をボランティアさんが前に並べていて、どれを読みますかと尋ねて読んであげるのです。時間がある場合は8冊全部を読むということもあったそうです。私たちのほうは、これから各区の会場などを見て、最低5分くらいと考えています。少し長目にできるようなところがあったら、3冊全部できるかどうか分からないのですが、様子を見ながらやっていきたいと思います。目の前に3冊を置いて、「どれがいい？」とか「これにする？」といったやり取りをしながらだと思えます。

(正道委員)

でも、5分というのは計算が甘いと思います。1冊読んで3、4分、そこにお母さんへの語りかけ、「こんにちは」のあいさつから始まって、読み聞かせというのはどういうものかということをお話しして、読んであげて、さようならまでで5分は甘いような気がします。

(山下委員)

物理的にできなくなった股関節検診ですが、1歳誕生歯科健診の場合も、それぞれの会場を見ていくと、物理的な制約も出てくるのではないかと思います。会場ごとにやっていきたいと思うのですが、先ほどお話ししましたが、私たちははじめにワーキンググループで1回目に中央区の中央地域保健福祉センターにおじゃましたときに、実際に職員がやってみたのです。そこは待ち時間を利用してやってみまして、待ち時間というのは、廊下に並べられたソファに職員が近づいて行って、床に膝をつけて、やらせてくださいと。それほど丁寧な説明もできませんでしたが、5分以内で収めようと思ったら収められると思います。

(正道委員)

ぜひそのノウハウを講習会で教えていただきたいと思います。

さらに言うと、4か月、5か月の子はせいぜい這うくらいだけでも、1歳すぎになると走る子もいますから、その辺の扱い、口なんか開けたくないのに口を開けさせられて、いじり回されて、とにかく早く帰りたいような子をどうやって扱っていいかもぜひ講習で教えてください。

(山下委員)

一緒に考えていただけたらと思います。

(神林委員)

3時間ある中で一人8組というと、読む時間が5分であっても、その一組に対する時間はもっとかけられるならかけてもいいということですね。

(山下委員)

そういうことだと思います。

(事務局)

結局、会場にもよるといふところもありますので、やりながら少しずつステップアップしていくしかないのではないかと思います。股関節検診より人数は少なくとも物理的条件は変わりませんので、できるだけ早くして欲しいという部分も最初はあると思うのです。そういうところも見ながらやっていくしかないのではないかと思います。子どもさんの扱いは、会場は地域保健福祉センターですので、保健師さんのご協力を得ながら、講習会などをたまに区でもってもらうような形も考えられると思っております。

(八木議長)

別紙4「絵本の選定」に関してコメントはございますか。

よろしければ、次にいきます。

(事務局)

—「(5)「今後の予定」について、別紙5により説明。

(正道委員)

アンケートでブックスタートのボランティアとして参加できると答えた人は、必ず第1回、第2回、第3回を通して受講してもらうということでしょうか。日にちが決まっていて、10月26日は都合が悪いという人がいた場合にはどうなるのでしょうか。

(事務局)

今、登録していただいている方は第1回目と第3回目は必須でお願いする予定です。第2回目は希望者の方という形です。10月26日は午前と午後とありますが、内容は同じで、どちらか出られるほうに出ていただくという形です。

(正道委員)

実際には私はボランティアとして参加するために登録したのですが、10月26日午前も午後もだめなのです。代替があるのか、その人は参加できなくて、その次まで待つのでしょうか。

(山下委員)

なるべく大勢の方に出ていただきたいと考えましたが、日程は決めさせていただいていますので、何らかのフォローの仕方を事務局で考えたいと思います。ぜひご登録ください。

(八木議長)

ほかにございますか。なければ、議事の内容としては以上でございます。事務局、何かありますか。

(事務局)

今回は1月ということで大分先になります。皆様がたのご都合などをお聞きしながら、調整し開催させていただきたいと思っております。保健所の健康衛生課と中央区健康福祉課が来られてい

ますが、ぜひ、各区の実行委員会についてご配慮をよろしくお願ひしたいと思ひます。

(司 会)

これをもちまして、第2回新潟市ブックスタート推進委員会を終了いたします。

本日は大変ありがとうございました。